

# いずみのひろば

2026年1月号  
日本福音宣明会  
NO.563 教会学校

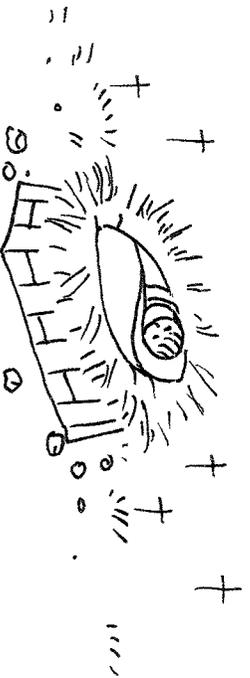


『すべての人の救い主になるために』

ルカによる福音書2:1~7

イエス様がお生まれになったところは、大國ローマがユダヤの国を支配していました。ローマの皇帝アウグストゥスは住んでいる人々から税金を集めるために「みんな自分の生まれた土地に帰って名前を登録しなさい。」と命令を出しました。病気の人も、お腹の大きくなったマリアさんも、全ての人がその命令にしたがわないといけません。三人はガリラヤの町ナザレからダビデの町ベツレヘムに向けて旅立ちました。車も電車もない時代ですから、ほとんどの人は歩くしかなかったでしょう。元気な大人でも2、3日はかかりました。ヨセフさんはマリアさんのことを思いロバにのせて、何回も休みながら旅をしたので1週間もかかりました。なのでベツレヘムに着いた時にはもうたくさんの人々でいっぱい。名前を登録するために並んでいる人々も長い列を作っていました。そして何よりも今晩泊まる宿屋を見つけれなければいけません。でも軒たずねてもどこも満員、見つかりません。早く見つけないと赤ちゃんが生まれてしまいます。それから探していると、「馬小屋なら空いているから、そこで休みなさい。」とってくれる人がいました。でもその馬小屋は暗くて狭くてよごれた場所でした。そんな場所でイエス様はお生まれになりました。どうして神さまのひとりごイエス様は、こんなみじめな馬小屋で生まれ、飼いや葉おけに寝かされているのでしょうか。もしイエス様がいつばなお城や神殿でお生まれになっていたら、きっとお金持ちや位の高い人たちしかイエス様のところには来ることができなかったでしょう。宿屋には居場所がなく、飼いや葉おけに寝かされたイエス様。神の子イエス様ご自身がみずから小さくみじめな姿となって来てくださったからこそ、だれでもイエス様のところへ行くことができました。

居場所がないと思うすべての人々が、罪びとさえも安心していることのできる場所となってくださいました。こんなにうれしく、おおきな励ましはありません。神さまが私たちを愛してくださっている確かな証しです。



(お話し 玉置幸代先生)